

あした 未来へつなぐ

【社会貢献】

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



札幌のコンサートマスター・大平まゆみさんと、北海道を中心に演奏活動を行っている浅井智子さんによる第一部。2名は2008年のチャリティーコンサート以来、2回目の出演。

仙台フィルハーモニー管弦楽団のメンバーを招き、「復興支援コンサート」として開催！ 『第二十回JR北海道チャリティーコンサート』

平 成四年にスタートし、今年で第二十回目を迎えた『JR北海道チャリティーコンサート』。毎年、十月十四日の「鉄道の日」にちなんだイベントとして開催しており、売上げの一部については社会福祉事業に寄付しています。

今年、十月四日に札幌コンサートホールKitara小ホールにて開催されました。出演者は札幌交響楽団のコンサートマスターを務めるヴァイオリニストの大平まゆみさんと、北海道を中心に演奏活動を行っているピアニストの浅井智子さん。そこに、東日本大震

災の発生後、活動のほとんどが中止に追い込まれるなど、大きな打撃を受けた仙台フィルハーモニー管弦楽団のメンバー三名が加わり、「復興支援コンサート」と銘打って全十五曲が披露されました。当初は大平さんと浅井さん二名での出演が決まっていたが、震災発生後に大平さんが仙台出身ということもあり、

今年にはコンサートの売上げの一部を運営が困難な状況に陥ることが懸念されている仙台フィルに寄付し、音楽を通じての復興活動に役立ててもらおうと、三名のメンバーを招いての開催となりました。コンサートは大平さんと浅井さんの演奏による第一部と、仙台フィルの三名および大平さんによる弦楽四重奏の第二部で構成。仙台フィルの三名は前日に来道し、大平さんと浅井さんのリハーサルではじめて一緒に演奏したにもかかわらず、息のあったところを見せて

くれました。プログラムはハーラインの「星に願いを」やドヴォルザークの「ユモレスク」など、なじみのある曲が中心。第二部では仙台フィルの三名が震災について一人ずつ語る場面があり、観客にとっては改めて震災について考える機会ともなりました。仙台フィルでは、震災後、「音楽の力による復興センター」を立ち上げ、ボランティアで演奏活動が続けています。メンバーの一人から避難所などをまわり、涙をこらえながら演奏してきたというエピソードが語られたところで会場がひとつになり、コンサートの盛り上がりは最高潮に達しました。今年最大の社会的ニーズに応じた形での開催となった今回のチャリティーコンサートは、図らずも地域貢献および社会福祉活動としての位置づけを象徴するものとなり、JR北海道では来年以降も意義ある活動としていっそう力を入れていきたいとしています。

毎年、札幌近郊の約30駅にてポスターやチラシで開催を案内。



仙台フィルメンバーはヴァイオリンの小川 有紀子さん、ヴィオラの清水暁子さん、チェロの山本 純さんの3名。

くれました。プログラムはハーラインの「星に願いを」やドヴォルザークの「ユモレスク」など、なじみのある曲が中心。第二部では仙台フィルの三名が震災について一人ずつ語る場面があり、観客にとっては改めて震災について考える機会ともなりました。仙台フィルでは、震災後、「音楽の力による復興センター」を立ち上げ、ボランティアで演奏活動が続けています。メンバーの一人から避難所などをまわり、涙をこらえながら演奏してきたというエピソードが語られたところで会場がひとつになり、コンサートの盛り上がりは最高潮に達しました。今年最大の社会的ニーズに応じた形での開催となった今回のチャリティーコンサートは、図らずも地域貢献および社会福祉活動としての位置づけを象徴するものとなり、JR北海道では来年以降も意義ある活動としていっそう力を入れていきたいとしています。